

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 北九州市立鞆ヶ谷小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒 804 - 0023
北九州市戸畑区東鞆ヶ谷町4の1

E-mail sayagatani-e@kita9.ed.jp

Website <http://www.kita9.ed.jp/sayagatani-e/>

児童生徒数 男子 118名 女子 109名 合計 227名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（芸術文化・表現教育）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校は昨年度よりユネスコスクールとなり、総合的な学習の時間の内容をESDの観点から見直しながら、活動内容を改善・工夫し新たなテーマでの積極的な取組を進めている。総合的な学習の時間を「ユネスコプロジェクト」と名称を決めて実践を意識的に進めている。校内研究では生活科・理科の教科学習の中で問

題解決力や知的好奇心を育てると共に、今年度から北九州市で取り組んでいる授業力改善教員の指導・支援のもとで、国語科の授業の中で思考力・表現力の向上へ力を注いでいる。昨年度までの福祉協力校・環境学習推進校としての継続的実践の蓄積と共に、今年度はユネスコ 100 校プロジェクトの助成金を活用した世界遺産学習や文化庁芸術体験プログラムを活用した「能舞台」公演など新たな実践をすることができた。

本校ではユネスコスクール全国大会へ今年度を含めて 3 年連続で管理職・教務が交代で参加し、最新の情報を ESD の観点をもとに実践に取り入れるようにしている。「夢を形にする 夢が形になる ユネスコスクール鞆ヶ谷」を合言葉に次年度は今年度の成果を生かし、効果的な連携学習やユネスコスクールのネットワークを活用して、ESDの推進校としてのさらなる実践向上に努めたい。

以下、本年度の各学年の実践をもとに学習活動内容を紹介する。

① 1 年生「たのしいあきいっぱい」 幼小連携学習

校庭や隣接する県営中央公園で秋みつけの体験学習をもとに、児童は遊び道具（どんぐりこま・自然物の素材を生かした作品）を工夫して作った。あきいっぱいランドに交流している保育園の園児を招待して楽しく遊ぶ活動を通して交流を図り、学習内容をパワーアップすることができた。給食交流前には昔の遊びを体験して遊びから学ぶ知恵を共有できた。年長者との昔遊び交流も実施することで地域との関わりを深めた。

② 2 年生「うごく うごく わたしのおもちゃ」 異学年交流学習

1 年生を招待するといく目標を持ち、自分たちの考えたおもちゃを 1 年生と楽しく遊ぶ学習内容を設定した。動くおもちゃをつくり遊びながら友達の工夫に学び、さらに 1 年生と遊ぶことで、楽しさを共有する機会をつくることができた。

※生活科ではこのような体験活動で、「いいねカード」「パワーアップカード」を利用して、共感的な学びを広げていく工夫を行っている。異学年交流をすることで遊びの輪を広げることに繋がっている。

③ 2 年生「おせち料理を味わい、おせち料理の意味を学ぼう」 食育関連学習

昨年と同じく区内で寿司店を営む料理長の協力で、12 月に「おせち」をテーマに食育学習を継続実践している。おせち 7 品を小さな重箱に用意していただき、味わいながらそのおせちに込められた意味を教えていただくことで、食文化に関心をもつことができた。

④ 3 年生「総合的な学習を始めよう」 地域図書館利用推進教育

総合的な学習の時間を開始するにあたり、地域図書館の利用を推進する機会をつくるために利用カード作成を促す。そしてカウンターでの貸し出し体験や図書館員による図書館利用ガイダンスを実施した。その中から読書週間中に企画された「1 日子ども図書司書」に児童が 2 名応募して館内での司書体験ができた。

⑤ 3 年生「昔のくらしを調べて体験しよう」 博物館での実感体験教育

3 学期の社会科学習を広げて、「いのちのたび博物館」で昔の道具をみたりさわったりする機会を持たせた。石臼で炒った大豆を挽いてきな粉を作る体験など、興味を広げる学習ができた。

⑥ 4年生「やさしさのある町づくり①」 **地域環境美化活動**

校区のほたる祭りの取り組みの歴史を知り、地域の環境美化の活動を市民センターでの解説スライドや館長さんに話をしてもらい、地域づくりのあゆみを知り、地域学習に興味をもつことができた。その学習が契機となり、ほたる祭り前の休日に実施された清掃活動に自主参加する児童も多く、学習したことが契機となり地域の美化活動が進んだ。

秋の美化花壇づくりでは、チューリップの球根植え(本年度は市内のユネスコスクール活動予算拠出)を地域の年長者の方と共に行った。この取組は今年度4回目となる継続的な環境美化の活動である。毎年4年生の体験学習として受け継がれている。

⑦ 4年生「やさしさのある町づくり②」 **福祉交流学習**

障害のある方に2回に分けて来校してもらった。まず視覚障害の方である盲導犬ユーザーと聴覚障害の方から話を聞き、別の日にさらに車いすユーザーの方からの話を聞いた。1日の暮らしの様子を教えてもらうことで、障害者の生活や願いや希望や課題など直接に学ぶことができた。その体験をもとに、学習を深めて発表会を設定し話を聞かせていただいた3人の障害者の方と更に交流を深めることができた。なお、今回の授業はクラウドファンด์(NPO法人生き方のデザイン研究所提案)をもとに賛同する市民の方の寄付で実現したものである。

⑧ 4年生「生き方のデザイン学習をしよう」 **いのちの授業・キャリア教育**

北九州市家庭保健局の子育て支援授業として「いのちの授業」を生かし、赤ちゃんの誕生や赤ちゃん人形での体感授業・子宮内での成長のイメージ学習を実施し、講師の助産師からの世界の赤ちゃんをテーマにスーダンの様子をスライドで見せてもらった。この授業には保護者が3名参観して共感してもらえた。

NPO法人生き方のデザイン研究所(北九州市小倉北区)のサポートを生かし、寄付の授業・ドリームマップ学習に取り組んだ。ドリームマップづくりでは、ドリマ先生(3名)が講師として来校し1日かけて、自分の将来の夢を作成した。これをもとにして10才を祝う会で完成したドリームマップを発表し、生き方のデザインをみんなで共有することができた。

⑨ 5年生「さやっこ保育士」になろう **保幼小交流・キャリア教育**

近隣の保育所・幼稚園での交流学習を通して、保育士体験をすることでいのちの大切さを考えながら体験学習を進めた。保育士体験を通して、実際の保育士に学びながら子どもたちにどんな関わり方をしていくかも考え、自分たちのアイデアを出して学びを生かす機会をつくることができた。

⑩ 5年生「森林教育」 **環境教育**

社会科の森林学習とつなげて本校に隣接する県営公園を活動場所にして、福岡県の森林に関する講師派遣学習へ応募して森林教育のインストラクターによる授業が実施できた。ネーチャーゲームや森林内を散策しながらのビンゴゲームなど有意義な学習となった。県営公園との連携学習として樹木の名札づくりにも取り組むことができた。児童は自然のすばらしさや楽しさを十分に感じていた。この

学習後の1泊2日の自然教室への橋渡しになる授業にすることができた。

⑪5年生「世界遺産学習 バスツアーで八幡製鉄所の世界遺産へ」世界遺産学習

ユネスコ100校プロジェクトに応募して助成金(10万円)を生かし、昨年度国内19番目に登録された世界文化遺産「明治日本の近代化世界遺産」である八幡製鉄所の関連施設見学や関連学習を進めることができた。

北九州市世界遺産課や西日本新聞社の記者の出前授業をもとに、興味関心を広げ、見学計画をもとに関連施設見学や市内の100年企業であるロボットで有名な安川電機みらい館・ロボット工場見学などを実施した。学習のまとめとして世界遺産関連の資料や新聞記事を用いて、学びを深める学習を実施して報告書にまとめることができた。北九州市では次年度にふるさと創世基金をもとに「世界遺産バスツアー」の企画が立てられていて、本校の実践はその先駆けとして評価が高いものとなっている。

⑫5年生 北九州芸術劇場と青山学院大学との連携学習・省察プログラム芸術体験

本校では毎年4月に北九州芸術劇場企画の「芸術体験学習」に応募して、4年生を中心に本物の芸術体験をする機会をもつようにしている。

本年度は青山学院大学の苜宿研究室の提案する省察プログラムを5年生で実施した。芸術体験教育の可能性に挑戦するプログラムで、1回の芸術体験をそのままにせず「体験したことを生かして自分を見つけ」「新たな自分を見つける・まだ出会っていない自分と出会う」などのキーワードをもとに、芸術体験を通じた深まりのある学びへいざなう学習を実践した。3回の芸術体験(今回は演劇をテーマにする)での毎回の映像や文字やイメージで残した記録をもとに実践を進めることができた。この授業は自己肯定感を育てていく機会ともなり、児童は活動に夢中になって取り組んでいた。2020年の新学習指導要領にもこの研究は生かされるということで、新たな研究実践面を開拓できた。

⑬6年生 公共交通からエネルギーを考える 環境教育

福岡県や北九州市の交通政策関連の出前授業をそれぞれ実施した。北九州市からは公共交通の課題やエネルギーの観点からの大切さをゲーム形式での体験型授業で学んだ。さらに福岡県からは温暖化対策やこれからの公共交通のありかたを学んだ。ここで北九州市の所有する水素自動車や電気自動車を紹介してもらった。本物の車の試乗もできて実感できるエネルギー環境教育となった。これを機会に北九州市エコ検定へのチャレンジも加速し、今年度も6年生は受検することができた。身近な暮らしの中に環境教育の視点をもつことができた。

⑭全学年 能舞台を鑑賞する ユネスコ文化遺産

文化庁主催企画の芸術体験プログラムではユネスコ文化遺産に関する古典芸能の鑑賞の機会をもつことができた。6年生は1学期のワークショップで能舞台や能についての基礎知識を学んだ。2学期は体育館を会場にして全学年で能を鑑賞した。大変恵まれた機会なので、保護者にも案内をして20名ほどの参加があった。本年度はユネスコ無形文化遺産で戸畑祇園が選ばれており、ユネスコスクールとしてもユネスコ文化遺産にふれることは大変意義深いこととなった。戸畑祇園に関しては毎年保存振興会の方が来校してお囃子に解説を交えてわかりやすく教えてもらう時間をつくっている。

⑮全学年 暮らしの中に新聞を ニュースにチャレンジ！ **NIE教育**

本年度3学期からはNIEに取り組んでいる。本市からのユネスコスクール助成金を活用して新聞台を自作した。ここで毎週水曜日に配信される読売新聞のワークシート記事をダウンロードして(A4サイズで毎週4枚)用意した長机に印刷したプリントを置き、自由に持ち帰れるようにして、記入されたプリントは担当教師が丸をつけて合格印を押して戻すようにしている。これに加え教師の自作ワークシートや興味関心の高い児童による自作シートも印刷して活用の幅を広げている。

新聞記事ではユネスコ関連学習に関する国際・人権・平和・環境などの記事へと学びの領域が広がることを目指している。授業外の学習活動であるが、児童は新聞台に置かれたA4サイズで紹介された最近の新聞記事を読むことで、ニュースにチャレンジのワークシートに取り組むようになっている。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()